

## 第3回新神戸地域ビジョン検討委員会 会議録

### 日時

令和3年11月11日（木）9:30～11:30

### 場所

新長田合同庁舎（神戸県民センター）D、E会議室

### 内容

意見交換

（議題）素案について

### 出席者

委員長	星 敦士	副委員長	乾 美紀
委員	井上 哲	委員	岩佐 光一郎
委員	梅澤 章	委員	児玉 充弘
委員	関口 幸明	委員	辻 幸志
委員	徳永 恭子	委員	永吉 一郎
委員	宮定 章	委員	渡辺 元樹

### 欠席者

委員	飛田 敦子	委員	森田 祐子
----	-------	----	-------

### 県庁

ビジョン課班長 大町 充弘

### 県民センター

神戸県民センター長 西躰 和美  
副センター長兼県民交流室長 竹森 俊策  
県民交流室次長 有吉 智香  
県交流室長兼総務防災課長 前野 芳範  
総務防災課ビジョン担当班長 西川 理  
総務防災課ビジョン担当職員 田原 由加里



## 内容

本庁ビジョン課より全県ビジョン骨子案（参考資料1）の説明があった。前回開催した検討委員会からの振り返り後、事前意見をいただいた委員から素案への意見についての説明（資料1）及び事務局より意見に対する対応案（資料2）の説明を行った。その後、素案について意見交換が行われた。主な内容は下記のとおり。

### 第2回検討委員会からの振り返り

（委員長）

意見交換の前に、まずは、これまでの振り返りから行っていきたい。

まず第2回検討委員会（6月開催）では、骨子案の検討を行った。新地域ビジョンの骨組みの部分となる項目、キーワード、どのような構成でそれぞれのパーツを成り立たせるのかを議論した。

第2回検討委員会後も、例えば、新神戸地域ビジョンの素案冊子の4ページのとおり、作成した骨子案について、県政懇話会等々でいただいた県民の方々のご意見も反映させる。また、何度か皆様にはメール等々でご連絡をしてコメントをいただき、改めて修正していくという運びで進んできたかと思う。

そうして骨子案が固まったのは8月頃になる。骨子案が固まったということで次は肉づけをしていく作業に移った。

それぞれのパーツに、より具体的な文章を付け加える。地域ビジョンはそれぞれの内容について、項目があり、参考資料的なデータがあり、県民からこのような意見があったのでこのようなビジョンが成り立ったという説明がある。また、「ビジョンの種、ビジョンの芽」で、30年後を展望する中で、現在、トライアルな形で始まっている試みを紹介することで、このような取組や活動が30年後には普通に行われているといいな、というものを紹介する。そのような構成で作成してきた。

これまで、こうした作業があり、お配りしている素案の冊子にまとまっている。

### 事前に意見をいただいた委員からの趣旨説明及び事務局からの対応案の説明

（資料1、資料2のとおりのため略）

## 意見交換

(委員長)

私も気づいたことがあったので、少し触れていきたい。

No. 3 (資料2-1) について、「農都」という言葉は県が使っている一つのコンセプト用語なので、これを変えるわけには多分いかないだろうなど考えた。農都と言っているからといって、農だけではない。ただ、農という言葉が項目名や文章の中で取り立ててあげると、やはり漁業という側面、神戸市は広い一次産業の特色があるので、そこに全く目配せしないというのも確かに指摘のとおり。本文には漁業という言葉が付け加えているが、改めて読むと項目名の一次産業という言葉はかたいなという感想を持った。一つの考え方だが、一次産業ということが自然に働きかけて、生産物を得るとするような営みだとするのであれば、自然という言葉に置き換えて、自然と都市生活の豊かな関係を深めていくということにしてもいいのかもしれない。

それから、No. 6とNo. 7 (資料2-1) について、ジェンダー関係のところ。コンセプトとしては、今、ライフコースに日本の社会で大きく影響を与える一つの大きな要素にジェンダーがある。一方で、それだけではない。実際このコンセプトの中でも「様々な」という形でそれを包括しているので、この書き方としては「ジェンダーに関わりなく」を削ってジェンダーだけではないとアピールするか、或いは「ジェンダーあるいは、〇〇は～」のようにジェンダーに積み重ねていくことになる。対応案は少しコンセプトとしては単純化したかもしれない。

No. 10 (資料2-1) の防災教育の話は、今回の委員説明を聞いて初めて理解した。つまり「教育の深化の対象を明らかにする」というのは、教育というものが色々な要素を含んでいるということ。確かにその通りで、教育に対する理解も深まってきたり、教育している内容そのものもスキルアップしたり、或いは対象そのものでもある。ただ、いろんなものを含むので、やはりここでは「教育は」という大きな主語にならざるをえないかなという感想を抱いた。本当は具体的に記載する必要があるのかもしれないが、すべてを含めるということになると、やはり大きな主語になってくるかなというところ。

それからNo. 11とNo. 15 (資料2-1) の地域や社会について。地域という概念から社会という概念がやや複雑になっていて、曖昧になっていた。このビジョンに出てくる地域や社会は、いくつかの層がある。一番大きなレベルは全体社会で日本社会や世界社会、一方で一番ローカルなレベルで言うと、丁目単位で町内会や自治会単位の社会といえる。或いはその中間に神戸市をイメージするような地域というものがある。これを地域という言葉と社会という言葉でどう住み分けしていくか、あるいは神戸という具体名をどこに出すかということで整理した。いずれも大事な要素であり、ローカルコミュニティの担い手をつくることも大事だが、一方で、神戸から社会全体を担えるような人材を作り、送り出していくことも当然重要である。それらをできるだけ含むことができるように、それぞれの箇所の言葉でエッジをき

かせることで、イメージできたらという考えのもと修正した。

また、No.16（資料2-1）の「ビジョンの種、ビジョンの芽」について。ビジョンの種、ビジョンの芽については、様々な考え方があある。確かに、30年後を見通すことも重要だが、このビジョンでは、ひとまず今できていることから掘り起こそうとしている。いかに地域で始まりつつある、まだ小さいけれども将来を見据えた活動や取組をどれだけ拾えるか。そういう点では、これから具体的に何を掲載できるのかを確認していくプロセスになるが、ぜひ委員のみなさま方にも、事例を紹介いただきたい。

さて、事前にいただいたご意見等については、事務局の説明した案で対応させていただいたが、何か追加でご意見があればお伺いしたい。

（各委員）

修正案について、特に意見なし。

（委員長）

委員会のフェーズとしては、修正の方向性をざっくり出してもらって皆さんで今後考えましょう、というよりは、今あるこの案の文言をもし変えていく、或いはこうした方がいいのではないかとということがあれば、この場で具体的にどのように変えていくか合意や共有をしながら進めていくフェーズになっていると思う。

この後は、意見や感想などについて、自由に手を挙げてお話いただいて、その都度、「それでは、どの部分をどうしたらいいだろう、どういう言葉にしたらいいだろうか」ということを具体的に詰めてつ、進めていきたい。

（委員）

非常にうまくまとめられてはいると思うが、地域活動を社会活動に変えていることが気になる。地域活動とは、地域によって様々である。特に私たちのように自治会活動をやっているものは、区ごとに大きな違いがある。

（事務局）

活動にかかる文言の変更はないが、「地域貢献」を「社会貢献」に、「地域を支える人や～」を「社会を支える人～」と変更している。

（委員）

読み方によっては、やはり活動に繋がっていくような印象を受けると思う。

もう1点、気になっていることがある。このビジョンを実行していくのは、県民センターだと思う。地域のいろいろな団体が協力しないとできないことだと思うが、どのような団体を中心に進めていこうと考えているのか。例えば、神戸市企画調整局のつなぐラボの中に市民活動推進委員会というものがある。10年以上続いている

委員会で、神戸市内の地域活動をどのように進めていくかを考えている。自治会中心にという話も実はあったが、行政が作ったふれあいのまちづくり協議会を中心に進める方がいいとなった。助成や交付金という形になるのかは、まだ決まっていないがそういった形で進めていくことが、今検討されている。

ビジョンの実現にあたっては、県と神戸市の進め方がずれないように神戸市との連携が必要ではないか。どのように進めると効率的かということも含めて、進め方についても皆さんのご意見を集約して決めてほしい。

#### (事務局)

1点目のご意見については、文章を具体的にチェックしたうえで、そのような表現があれば委員長とともども検討させていただく。

2点目のご意見のビジョン実現の進め方については、全県・地域ビジョンの策定後、具体的なビジョンに基づいた様々な事業をどう進めていくかということも、まさに今検討段階である。今はその実行部隊として、地域ビジョン委員が各県民局・県民センターにおられて、積極的に取組んでいただいている。ビジョン委員会をどうするかというのもあるし、ビジョンに基づいた様々なプロジェクトを、どのような体制で進めていくかということ年度末にかけて、本庁或いは県民センターの中でも協議しながら考えていくことになる。

その上で、特に神戸については、神戸市と圏域が一緒なので、今までと同じように連携しながらやっていく。相談しながらやっていくのは当然のことであり、各区で様々な取り組みがなされていることも踏まえた上で、神戸市とともに一緒になってやっていく。相反して、違う方向を向いてやっていくということは、あまり想定されないかと思う。そういう意味でビジョンの策定にも神戸市から積極的に参画していただいていると理解している。

#### (委員長)

ここが最後の機会でもあるので、コメントや感想等を含めてご発言を希望される方いたら、ぜひよろしくお願ひしたい。

#### (委員)

先ほどのご指摘について、事務局からお話があったとおり、地域の担い手については、つなぐラボで担当させていただいている。組織改正に伴い、企画調整局に所管をさせていただいた。この地域の担い手の問題或いは地域が抱える課題については、全市にまたがる課題となるので、企画調整局であらゆる部局との連携がしやすいような形で重点的に取り組んでいこうと考えている。企画調整局は県と連携しやすい部局のため、ご指摘を踏まえて県市連携しながら取り組んでいきたい。

(委員)

先ほど、ビジョン課より説明があった全県ビジョンの骨子案について。非常にわかりやすく、体系立てて書いているので理解しやすかった。先ほど話されたときに、包摂という言葉が2回ぐらい使われていたということが印象的だったので、その言葉をもう少し骨子の中に入れることができたらいい。今は多様性を受け入れるぐらいの段階であるが、いかに多様な背景を持つ人と共生して、新しい社会をつくり上げることができるかということなので、30年先を考えるとときには本当に包摂という概念が大切になると思う。

(委員長)

地域ビジョンの中で、例えば、資料2-2の5ページに「新しい共生のかたちが生まれる」とある。多分ここで最初は包摂という言葉を使っていたかもしれない。そこを「すべての人を社会のメンバーとして包み込む」とした。包摂という言葉も一般的になってきて、よく目にするようになってきているが、それを使って伝わるかどうかというところではある。言い換えとして、今は「受け入れて包み込む」となっているが、一言で言えば「メンバーとして包摂する」という表現も当然あり得る。そのときに、どちらの方が伝わりやすいかという判断かと思う。

わかりづらいと言われたら戻す、ということも方法の1つ。政策概念としてはもうすごく一般的になってきて、SDGs関係でもよく出てくるので、伝わりやすさはあると思う。ただ、いろんな方がいらっしゃるの、わかりやすく伝えられる表現のほうが汎用性が高い気もする。

(委員)

それと関連すると、9ページNo. 14のところ。そこを、エ) 多様な主体がともに社会をそだてるについては「新しいメンバーを受け入れ包括することを通して」だとか、受け入れるということ、受け入れて包括するだとか多様性を認めてその人たちの活躍を促すだとか、少しインクルージョンの理念が入っているといい。

また、例えば、素案36ページ「世界とつながる」か46ページ「互いに尊重しあい、ともに生きる」の本文に、包摂の概念が入るといいと思う。また、「世界とつながる」であれば、外国人の人たちに、神戸で働きたくなる人を増やすというのはすごくいいので、「そこで多様性を包括して、神戸を活性化させる」というように、多様性はもちろん認めるが、そこから何なのかということまで持っていけたらいい。

もしくは、46ページのところ、誰ひとり取り残すことなくというのは、現実には難しいが大好きな言葉。ここも「ともに生きる」と書いている。ともに生き、社会で活躍する人材として包摂する、だとかそこまで持っていけたらいい。

今は多様性を認めるぐらいの初期的段階だが、30年後になると、やはり包摂という段階までいっておきたいと思っている。何か意見があるかもしれないが、当たり障りのない言葉を追加してもらえれば。

(委員長)

インクルージョンという言葉は、日本語に置き換えるときにいろんな表現やニュアンスがあると思う。多分、今ご指摘いただいた「まず来てもらって、一緒に働いてもらう」レベルと、46ページで言うような「ともに生活レベルで一体化していく」は、少しニュアンスが違ったりする。インクルージョンにも様々なグレードがあると思うので、日本語で、やわらかい表現でインクルージョン的要素を意味するようなものを、少しこの辺に入れることを検討する。

(委員)

先ほど、対応案を示していただいているのに申し訳ないが、主語が防災教育ということであれば、「防災教育、」は変更しないままのほうがよい。

(委員)

素案55ページの「ビジョンの種、ビジョンの芽 神戸だからこそその防災教育」というタイトルのところ。他にも防災教育をしている学校はあると思うので、この3つの学校を並べるのであれば「防災を学べる学校」のように書き切ったほうがいいのではないかと。もしくは、人材づくりでもいいのかもしれない。

また、3つの学校について記載がある中で、神戸学院大学は、学生活動に重点がおかれていて、大学の説明があまりないような気がする。これからのこととして、そういうところをアピールするのであれば、兵庫県立大学も、人材づくりに大学院生や社会人とか、防災の人材づくりがホームページに書かれているので、そういうところも積極的にアピールするのもありかなと思った。

(委員長)

先ほど意見で出たように、教育と言っても色んな教育がある中で、ここに挙がっているのはまさに学校教育という内容なので、そのような趣旨の紹介ということが分かるタイトルにするのはいい。神戸学院大学は学科として防災を扱っているもので、いわゆるカリキュラム的な、組織的な特徴とそこをベースにした様々な学生活動という2つのセットがあると思うので、要素が紹介されたらいい。

(委員)

資料を本当にわかりやすくまとめていただいているのと事務局は大変な作業だったろうというのが非常に見えてくる資料であった。2点気になる点がある。いい意味で気になっているので、どちらかという感想になる。

全県ビジョンの骨子の4ページ、自分らしく生きられる社会の2項目、居場所のある社会に「誰もが人と繋がることのできる居場所」という記載がある。人との繋がりが居場所に大事だということは非常にいい表現だと思うが、30年後にどのよう

な居場所があるかを見据えたときに、概念で考えると空間づくりというところも出てくると思う。どういった空間が30年後に居場所としてあるのかを見据えた記載ができていれば嬉しい。

地域ビジョンの素案51ページ、そだてるまちのア) 次の世代、次の社会の担い手をそだてるで、居場所という言葉が使われている。ここで大事になるのは、教育の観点でいくと、生きた体験から学ぶということ。様々な活動をして、生きた体験から学ぶことが大事だと思う。あわせて、神戸だから学べることを大切に、という言葉は素敵だと思っている。神戸の自然環境も学びの場があるということになっているので、できれば国際交流的なところに人と人との繋がりのある自然体験学習、要は神戸の自然を非常にうまく使うということであれば、国際交流的な事業、人と人との繋がりの中に、自然体験学習を融合させるようなところを目指すビジョンがあってもいいのかなと感じた。

いずれにしても、30年後は描くのが難しいが、これからどういう方向性で、ビジョンをどう活用して実践活動につなげていくか。いろいろ繋がってくる部分があると思うので、半ばで検証する場面というのが非常に大事で、30年の間にフィードバックして積み上げていくということが何かあればいいのかなと感じた。

(委員長)

生きた体験をもとに教育が育まれるというニュアンスとして含めることができれば、文言を考えさせていただきたい。

(委員)

委員長はじめ事務局が大変ご苦労されて、非常に良いビジョンを作成されたと思う。感想になるが、やさしい言葉を使って読みやすく分かりやすい内容になっている。

先ほども委員長が1次産業を自然と置き換えてもいいかなと仰っていたが、非常に細やかに事務局と先生が、平易で堅くない文章にすることに気を遣っておられるのがよくわかる。一般の方々にも時間をかけて深く内容を読んでもらうようにすることが大事だ。文書づくりは非常に神経を使い行うことが大事だと改めて思った。

「ビジョンの芽、ビジョンの種」が紹介されているが、掲載の意味が、将来あるべき姿になるために、ここで紹介されているような具体例をさらに深めていたり、或いはこれはもう少し形を変えたり、さらに深化させたりする一例ということで挙げていることが、先程の事務局の説明で分った。

質問になるが、ビジョンができ上がったときには、もっと内容を簡略化したものを作成するのか。

(事務局)

来年度、従来のような冊子と概略版を作成する予定である。

(委員)

関心がある方はこの文章の長さでもお読みになられると思うが、多くの方はこういう類の文章は丁寧には読んでくれない。せつかくやさしくて、わかりやすい言葉で書いておられるのでぜひとも読んでもらいたいのので、最初の引っ張り込みをするのに、簡略版があればなおいいと思う。

(委員長)

改めて文言の部分を確認したが、地域活動に関してご指摘いただいた内容について確かにそうだなと理解した。市民活動という言葉が多く出てくるが、地域活動という言葉が出てこない。修正が加わったことが理由ではないが、もともと少し偏りがあったと、今改めて気づいた。

ビジョンの構成の中には、ローカルの身近な地域社会と、より広い大きな社会という両方が含まれてはいる。どちらも必要なことだというニュアンスが伝わるように、文言の中に、特に後半の地域活動であるとか地域の人々が支え合うといったところに、地域活動という言葉が入るような形で対応させていただきたい。

(委員)

体裁の問題だが、例えば、県民の意見というのは項目ごとに記載があるが、若干多い印象がある。読みづらくなってくるなと思ったので、委員ヒアリングまでは不要ではないか。もしくは巻末の付録などに入れるかで、メインを読みやすくしておく。県民の意見はグループぐらいに留めておいたらいかがという提案である。

(委員長)

構成と内容は変わらないと思うが、構成やボリュームバランスは事務局と相談させていただきたい。それに関して言うと、ビジョンの冊子そのものを見ていただくと、半分近く現状の課題説明をしていて、神戸市は課題山積みみたいな状態になっている。例えば、図表は後ろに回して少し簡略した表現にするなど、全体のバランスは考えさせていただきたい。

県民の意見も、このビジョンそのものは、もちろん委員会の場や個別ヒアリングで、委員の先生方のご意見伺ってきた。プロセスとしては、例えば学生であったり、或いは若手企業人であったり、或いは地域で活動している方々であったりの意見を伺って、これを作ってきたというところがあるので、それを中心にまとめていく。いわゆる本体の部分に収まりきらなかった我々の活動の形跡は、付録や資料で補わせていただくなどの変更がある点については、ご承知おきいただきたい。

(事務局)

ビジョンの文章本体の元になっているものは外せないなので、委員ヒアリングだけか

ら切るという一律の対応ではなく、本体に影響のあるものはできるだけ残していき、一方でその他は付録等にまわすという対応で整理していきたい。

(委員長)

このような意見を踏まえて、項目ができ、このような内容のものが考えられた、という繋がりがわかる構成になることが大事である。

(委員)

言語化することの大変さがあったと思うが、非常によく練られた文章だと思っている。特にいいと思ったのが、自分のことと自分以外のことをしっかり書いてある。自分は自分として自分らしく生きるということ大事にしようということと、例えば地域のことを自分たちのこととして、自分のことのように考えるっていう。今はネット社会であったり、コロナであったり、やっぱ自分と自分以外の他者との距離感が、なかなか難しいと実感しているので、この2つ書かれているところがいい。

そして、ビジョンを策定した後のことが私も非常に気になった。前のビジョンのときも、県庁内では共有されていると思うが、例えばなにかの施策発表であったり、何かの会見であったりとかで、これはビジョンに沿ってなされたものですとか、逆に、ビジョンの理念に反するよねということあまり聞いたことがない。なので、当局の皆さんももちろんだが、例えば議会もそうで、もしかしたらメディアもそうかもしれないが、「ビジョンに」というのが口の端に上るように、どうやって浸透させてみんなで共有していくかを、私も含めて考えていきたい。

(委員長)

全県ビジョンは、最後のところで「実現に向けて」というプロセスを含めて提言していくかたちになるのか。

(ビジョン課)

実現に向けて動かす仕組みというところで、大きな方針は立てようと思っている。具体的な、どういったものを立てていくかは来年度、戦略という形で書いていこうかという運びになっている。

(委員長)

それは地域に関しても言及されるということか。

(ビジョン課)

そのとおり。地域に関しても、全県の方でも大きくは言及していく。

(事務局)

今、ビジョン課が説明したが、全県ビジョンの骨子案の最後のスライド（実現に向けて）に「動かす仕組み」という記載がある。特に地域ビジョンに関連して言えば、2つ目の○重点プロジェクトの推進ということで、地域ビジョン実現に向けてプロジェクト企画委員会を各地に設置と書いてある。神戸についても同様の企画委員会みたいなものを各地に設置して、要はビジョンに基づいて出てきたいろんなプロジェクトみたいなものを作り上げ、それをどう進めていくかを企画委員会で議論していくのかなと考えている。

(委員長)

せっかく作ったビジョンなので、政策のベースになってもらいたいし、ここで望まれる地域の実現を目指して政策が展開されていくということを期待したい。

文言の加筆修正などは、できるだけ最終案に反映させていきたい。今日の修正は、また委員の皆様にお送りして見ていただくタイミングはあるのか。

(事務局)

はい。当然ある。

(委員長)

それでは、事務局修正後、また皆様にお送りするので、ご確認とコメントをいただいで、もし対応が必要であれば修正して、パブリック・コメントへという流れになる。

議論に関してはここでひとまず、私の方で進行は終わらせていただき事務局のほうにお返ししたい。

(事務局)

事務局より今後のスケジュール（資料4）について説明させていただきたい。本日いただいたご意見については、委員長と相談しながら修正したい。修正後、みなさまに送付させていただき、ご意見をいただく予定。その後、12月から1月にパブリック・コメントを実施する。基本的にいただいたご意見は委員長一任で修正していきたいと考えている。ただ、ご意見の内容によっては、2月に委員会を開催するかもしれない。パブリック・コメント後の最終案については、また皆様にご送付させていただき、ご確認をお願いしたい。3月には新地域ビジョン策定となり、来年度からは、ビジョンの実現に向けた方策の検討を進める予定である。

また、資料5については、委員の所属・役職が変更になったことに伴う要綱修正案となる。

事務局からの連絡は以上となる。